

# NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 巻頭エッセイ アクティブ・ラーニングは思考を活性化する救世主か！? ..... 1	● 授業の玉手箱「翻訳：日本語と英語の文化理解」..... 4
● 2014 年度教員免許状更新講習3 報告 ..... 2	● 書籍紹介 『日本人と英語』の社会学—なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』..... 4
● 『OJU 教職活動報告・研究 Vol.5』の発行..... 3	● 2015 年度教員免許状更新講習1・2 案内 ..... 4
● 第3回「英語の教え方教室合宿」in 名張（第 36 回勉強会）案内... 3	● 編集後記 ..... 4

## 巻頭エッセイ

### アクティブ・ラーニングは思考を活性化する救世主か！?

中井 弘一

小中学校・高校の学習内容を定める学習指導要領を改定する議論が、中央教育審議会に本格始動した。その注目の一つが、「アクティブ・ラーニング」の充実である。読売新聞朝刊（2月7日付）には次のような説明があった。

アクティブ・ラーニングとは、学習する者が能動的になる学びのことだ。もともとは、大学が学生の学力底上げのため米国から導入した、大学での学びを指す。ペアやグループでの話し合いや作業が多く、一方的な講義に比べて知識・技能の定着や学習意欲の向上に効果的とされる。

小中学校や高校では、アクティブ・ラーニングという言葉が生まれる前から、同様の学びが実践されていた。例えば、各自が解き方を考え、発表し、みんなで考え、最後に各自でもう一度考える授業。「練り上げ授業」と呼ばれる伝統的な指導法で、国際的にも評価が高い。

今、なぜアクティブ・ラーニングという学習形態が注目されるのか。アクティブ・ラーニングは何をねらいとしているのか。現代社会が複雑化するだけでなくその影響の即時性から、これからの時代は、正解が一つの事だけを学ぶのではなく、正解が複数であったり、または正解がなかったりするものを学習することが求められているからであろう。

大学教育でも、専門知識の探究から知識基盤社会をたくましく生き抜いていくためのジェネリック・スキルの習得に焦点が移りつつあり、活動的・実践的な学びや学習形態が必要とされている。

アクティブ・ラーニングがねらいとする教育は、「思考を活性化すること」であろう。英語力がグローバル化の必要条件と言われるが、思考力こそ最必要条件である。講義型の授業では、生徒や学生の思考力は活性化しない。さりとて、「演習」などの基礎知識や基礎能力を培う基盤科目は critical mass として一定量の学習が必要である。ジェット機が離陸する際に一定の長さの滑走路を飛翔できるスピードで走行しないと離陸できないことと同じである。学びには input-intake-output の段階がある。与えられた教材を思考して内在化することで、output というプロダクションが生まれる。ただ、この intake（内在化）は目に見えない思考のプロセスであり、学習者は自らの力でこの思考過程を経なければならぬ。それには、自律的でアクティブな学習が必要である。学びには知識面の量的な達成が必要であるが、より深い質的な達成も必要である。基盤となる知識は量が求められるが、思考は質が求められる。

思考は単線型でない。簡単な例で言うと、たとえば、「暖流と寒流では、よい漁場になりやすいのはどちらか」この問いに対し「水に溶ける気体の量は、水の温度が高い場合と低い場合では、どちらが多いか」という問いの答えから最初の問いの解答を導き出せる。お湯を沸かすとやがて気泡が現れてくる。水に溶けていた気体が出て行く。そこから、「冷たい水の方が気体の量は多い」が解答の根拠になる。また、「冷やされた表層の水が対流で下降し、栄養が豊富な海洋深層水が表層に押し上げられ、その栄養を植物プランクトンが利用して繁殖し、同時に動物プランクトンが繁殖するから」と別の根拠を考えることもできる。つまり、複線的に思考することによって真理に近づくことができる。このように知的なやりとりが必要で、それには協働して学ぶことが効果的であろう。

ただ、このアクティブ・ラーニングはそうまくいくものではない。失敗に終わらないようにするためには、米国でまとめられた「7つの原則」の指針が参考になる。1. 教員と生徒（学生）とのコンタクト、2. 生徒（学生）間の協働、3. 能動的な学習、4. 迅速なフィードバック、5. 学習時間の確保、6. 生徒（学生）への高い期待、7. 多様な才能と学習方法の尊重がそこには挙げられている。別の角度から見ると、教員には、過剰介入せず生徒に自学自習を促進させる技量があること、学習目的的確に伝えること、指導の段取りを充分準備することなどが必要で、生徒（学生）には、独断で決めつけないこと、基礎教養や議論の前提となる知識をしっかりと身につけていること、安易な解答に走らないこと、協働学習のリーダーシップなどが求められる。学びに楽はないが、この学習形態は教員と生徒（学生）双方に相応の負担を強いるものである。それが踏み込めない障害になることがある。

大切なことは、「やらされている」という思いでは学びや教育は進展しないということである。学習意欲・指導意欲が前提条件である。知識の量と思考の活性化が意欲に繋がるものであるとするなら、アクティブ・ラーニングは学習形態であって、その起爆剤には、指導者の教員としての魅力・力量が必要でだろう。やはり「自信」「信頼」「誇り」を持つ指導者が救世主となるのではないだろうか。

#### 参考文献

- 「アクティブ・ラーニング 話して動いて学び充実」読売新聞朝刊 平成 27 年 2 月 7 日（土）山地 弘起（2013）「アクティブ・ラーニングの実質化に向けて」『長崎大学におけるアクティブ・ラーニングの事例 第1集』
- Chickering, A. W., & Gamson, Z. F. (1987) *Seven principles for good practice in undergraduate education*. AAHE Bulletin



の考えたことを人に伝える練習をどのように取り入れるか、また、パソコンやプロジェクターを使うことでどのような効果が得られるかがよくわかりました。免許状更新をきっかけとして、このような勉強ができて本当によかったです。これからも参加できる勉強会がありましたら是非一緒に学ばせてください。

- ・ジャンル分析はとても新鮮でした。「効果的に教材を理解する(させる)には」ばかり念頭に置いて教材研究をしてきた自分にとって、理解した内容を自分なりに発信するために必要な表現を知ることが、抜けていた事に気付かされました。今回の講習で、レシピや通知文、天気予報など実際はどのように使われているか演習した経験が次に繋がるヒントになりました。また、「プレゼンテーションは無理！」という感情でしたが、今回の講習で、「すぐにいつでもできる小さな活動の積み重ねによって充分できる活動であること」がわかりました。参加して楽しい講習であったので、生徒にも参加していて楽しくなったと思ってもらえる授業を作っていきたいです。ありがとうございました。
- ・ジャンルという考え方は、これまで習ってこなかったため、とても新鮮に感じました。確かに場面(内容)に応じた「型」があり、それを知ることで内容理解や表現・発信には大変有効だと感じました。天気予報のところでは、“will be”とはあまり言わないとおっしゃっていましたが、中学生の教科書(2年生)では、“will be”が使われているのでどう教えたらいかなあと考えさせられました。プレゼンテーションについては、いろいろなプレゼンを見せ、とても勉強になりました。同じ、文法的な内容(複数形)を教えるのでも、パワーポイントを使えば、楽しく授業受けられると感じました。
- ・発信させたいと思って教師になりました。生徒があまりにも単語すら覚えていないこと、電子辞書すら抵抗を示す先輩教員、いろいろな壁にぶち当たっています。それでも、おもしろいことをすれば生徒は必ず反応してくれる。その生徒の反応に他の教師も反応すると信じて気長に取り組みたいです。今日の教材は大切にします。ありがとうございました。楽しかったです。
- ・「ジャンル分析」は東條先生のおっしゃる「ジャンル」のイメージをつかむのに時間がかかり過ぎたので、p.4から入ってp.1に戻っていた方が、ジャンル分析の有効性がより認識できたと思います。先生のお話を聞いて、英語教育に何が足りなかったのか自分の中ではっきり分かったような気がします。中井先生の講習については、常に「生徒の心に寄り添う」というお気持ちからスタートされている姿勢に感銘を受けました。プレゼンテーションの基本構造から例まで、幅広い題材を用意してくださりありがとうございました。

大阪女学院大学 教職課程機関誌 発行  
『OJU 教職活動報告・研究 Vol. 5』

人生には、次の3つが必要であるという人がいる。

「何かすべきこと」：英語でプロジェクトというのか。プロフィット(利益)、見込み(プロスペクト)、プロダクション(生産)、プログレス(前進)など、関連語にはみな、プロ(前に)が付く。

「何か楽しみなこと」：英語に look forward to ~ ing という表現がある。これから先のことを待つ気持ちである。

「愛すべき人」：自分の気持ちがその人に向かうこと。人生を前向きの前傾姿勢でがんばろうとする。

ただ、生徒に対していつも前傾姿勢で頑張れるというものでもない。風が強くて後傾姿勢になるときもある。休みたときもある。人には力強く前進できない時がある。そんな時があったかもしれないが、それでもあなたの周りにはあなたを支えてくれた人がきつといたはずだ。この2014年度機関誌 Vol. 5もあなたを支えるもののひとつであらばと願う。本号の実践記録・実践紹介を投稿いただいた三仙真也先生、泉美穂先生、堀尾美央先生の教員仲間を支えようとするお気持ちにお礼申し上げたい。本学教職課程は、学校現場の皆さんの支援に勤しみ、明日の教育を考える教育機関としての役割を担うようこれからも着実な歩みを進めてゆく所存である。



目次

巻頭言 これからの英語教育の改善・充実方策について

I 2014年度活動報告

1. 平成26年度夏季教員免許状更新講習1
2. 平成26年度夏季教員免許状更新講習2
3. 授業デザインスキルアップ演習
4. 2014年度勉強会「英語の教え方教室」報告
  - 第29回 勉強会「英語の教え方教室」(思考力をフル回転し、的確に要領よく相手に伝える表現力の育成)
  - 兼第2回「英語の教え方教室」合宿 in 長浜
  - 第30回「私の授業紹介と忍者学 Ninjalogy」
  - 第31回「コミュニケーション英語—実践活動紹介—」
  - 第32回「私の授業実践—英語を通じて世界を知ることをめざして—」
  - 第33回「エクセター大学での研修で学んだこと」
  - 第34回「教室英文法再考—英語ということばの理解—」
  - 第35回「中学校と高等学校の英語授業を通して見えてきたこと」

II 教員養成センター・ホームページ報告

1. 月別 HP アクセス件数(2014年1月~12月)
2. 英語教育 巻頭リレー・エッセイ(2014年2月~2015年1月)
3. 書籍紹介(2014年2月~2015年1月)

III OJU 教職ネットの1年

1. ML 配信記録配信件数推移(2015年1月)
2. OJU 教職ネット登録について

IV 教職課程活動報告

1. サークル活動報告
  2. 学生授業課題レポート:「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」春・秋学期
- ・Audio-Lingual Method は役に立つ指導法か  
中谷 瑠子

- ・指導案と授業の進め方・学習指導案の書き方  
戸田 浩美
- ・Communicative Language Teaching は役立つ指導法か  
戸田 浩美
- 3. 教職フィールドワーク(韓国)報告・レポート  
戸田 浩美
- 4. 教育実習報告・レポート  
戸田 浩美
- ・教育実習を通じて考えた課題とその解決に向けたビジョン  
牧野 佑里子
- ・教育実習を通じて考えた課題とその解決に向けたビジョン  
山本 妙
- ・能動的学習(アクティブ・ラーニング)の実践  
—3週間の教育実習を通して—
- 5. 教職実践演習レポート  
—教科内容等の指導力について—  
平岡 麗南

V 実践記録・実践報告・授業研究ノート

■実践記録

1. 高校と中学校の bridging ~若狭高校の「中学生対象 Brush Up!」事業を通して~  
福井県立若狭高等学校教諭 三仙 真也
2. 「コミュニケーション英語」における英語運用能力の育成をめざした指導法の開発にむけて  
~5技能統合型のテーマ学習を通して~  
神戸大学附属中等教育学校教諭 泉 美穂
3. 英語を通じて世界を知ることをめざして~滋賀県立高島高校での実践~  
滋賀県立米原高等学校教諭 堀尾 美央

■授業研究ノート

1. 効果的な英語プレゼンテーションを行う指導にあたって  
本学教授 中井 弘一

資料 教員養成センター Newsletter 2014

第17号 第18号 第19号 第20号

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/bulletin> に掲載

第3回「英語の教え方教室合宿」in 名張 案内  
2015(平成27)年5月16日(土)~17日(日)  
於：三重県立名張高等学校

大阪女学院大学「英語の教え方教室」の有志のメンバーが昨年の長浜に引き続き、第3回「英語の教え方教室合宿(兼第36回勉強会)」を企画いたしました。今回は、中井弘一先生の基調講演や参加者による討論を通して、日本語と英語の発想の違いを認識した文法指導の在り方を考え、ことばの指導者としての英語の教え方のスキルアップを図ります。同時に参加者同士の親睦を図ることを目的としています。翌日は普段は拝観できない名張忍者屋敷や赤目四十八滝の散策等を企画しています。



有志幹事：(チーム伊賀) 岡本 泰、池田 裕、井海 崇史  
詳細案内は <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course>

【1日目】

- 12:50 開会 岡本 泰  
13:00 基調講演  
「ことばと発想：日本語と英語はどう異なるのか  
—伝わる英語表現としての文法指導—」  
大阪女学院大学 中井 弘一教授
- 14:35 グループ討論① 持ち寄り資料による話し合い  
「教科書における文法の指導」  
「文法指導：私の指導実践の工夫」
- 16:20 記念写真撮影  
個人教材・資料配付
- 16:25 グループ討論② 持ち寄り資料による話し合い  
「相互相談タイム：私の指導上の工夫・悩み」
- 17:50 閉会 井海 崇史  
19:00 夕食(名張市内)、歓談等

【2日目】

- 7:30 朝食  
8:30 名張忍者屋敷(池田裕先生の解説ガイド付き)  
赤目四十八滝観光(車で移動)
- 14:00 昼食『伊賀牛』名張駅で昼食後、解散

# 授業の玉手箱

## 翻訳：日本語と英語の言語文化の理解

中井 弘一

コンピュータのウェブ翻訳アプリで次の英文の和訳を試した。  
**His failure to fulfill the promise made the voters suspicious.**  
 グーグル：約束を果たすために彼の失敗は有権者が疑わしい。  
 エキサイト：約束を果たすこと彼の失敗は、有権者を疑い深くした。  
 Yahoo：約束を果たすことに関する彼の怠慢は、有権者を疑わしくしました。

という結果であった。いわゆる「無生物主語構文」の文である。これには日本語の発想と英語の発想との大きな違いがある。「因果関係」を表現する場合、英語は「原因」を「主語」で、「結果」を「他動詞」と「目的語」で表し、「何が何をする」という一つの文でまとめる。しかしながら、日本語は、「原因」「結果」を二つの「節」で経過として表現する。「彼は公約を果たせなかったので、(その結果)有権者は疑いを抱いた」が自然な日本語の文章になる。原因・要因の明確性を重視する英語と、事の経過(流れ)を重視する日本語の文化的感覚の差異である。これは、英語を「自然な日本語」に翻訳する、日本語を「英語らしい英語」に翻訳する際には絶対不可欠な翻訳テクニックとなるが、文化の違いと捉えて学びたい。

また、和英翻訳するときには、日本語に囚われずその意味を言い換えて表現する方が易である。日本語の「いまいち」という表現は、  
 ・十分じゃない It's not good enough.  
 ・まあいいけれど、もっと期待していた I think it is OK, but I expected more.  
 ・もっとできると思うだけ You can do better than this.  
 ・これが一番だとは言えない I cannot say it is the best.

(青木ゆか (2014)『ずるいえいご』日本経済新聞出版社)

“lack something”と言っても良いし、仮定法を使って、“Could be better.”もある。「正解に近いが賞品の葉巻はあげられない」という俗語表現で、“close but no cigar”などもある。要は、文化として日英の表現を捉えていくことが生徒の興味を引くことにならないだろうか。

## 書籍紹介

### 『日本人と英語』の社会学—なぜ英語教育論は誤解だらけなのか』

寺沢拓敬(著)、300ページ、研究社(2015/1/17)、¥2,808

タイトルが異彩を放つ本書は、社会学的視点に基づいて日本における英語教育を分析し、「日本人と英語」に関わる数々の言説を計量分析に基づいて、ことごとく否定している。英語教育に直接的に関わる読者群にとっては衝撃的な、控えめに言っても違和感のある一冊である。膨大なデータの統計分析に基づいて批判されているのは、「日本人の英語力はアジアの中でも最低」「日本人の英語学習熱は非常に高い」「女性は英語に対して積極的で、その学習熱は特に高い」「現代の日本人にとって英語使用は不可欠になっている」「英語使用ニーズは年々増加している」「日本人にとって英語力は良い収入・よい仕事をえるための「武器」である」といった英語言説であり、本書ではこれらすべての言説は誤謬であると述べられている。

おそらく、我々にとって最も関心があるのは、社会の英語ニーズをめぐっての議論である。なぜなら、日本の英語教育は、2003年のいわゆる「英語が使える日本人」育成のための行動計画以来、グローバル化の進展への対応のために日本人は世界的平均水準の英語力を目指すべきである、というように、国際化を根拠とした英語教育の充実を掲げてきたからである。折しも、2020年の東京オリンピック開催をめぐって、新たな英語教育が策定されようとしている。この議論に対して本書では、日本においては「仕事と英語」の実態をきちんと把握することなく英語熱や英語ニーズが過大に見積もられてきたとし、その原因として、政府や産業界、語学ビジネスの利益や、外国語教育界における日本文化同質論(すべての日本人が英語を使えるようにならないといけない)の流布を指摘している。

統計データが示す英語言説の否定にはいささか抵抗感もあるが、本書の学術的示唆は客観的に受け止めたい。従来、英語教育研究は



言語学、心理学、教育学といった学問体系や科学的と言われる言語習得論の中で論じられており、社会的ニーズの理解については極めてナイーブであったと言わざるを得ない。本書では英語教育を含む種々の言語現象を研究するクリティカル応用言語学や社会言語学など、社会科学的分析を中心とした英語教育研究の必要性を説いているが、これらの研究が進展すれば、社会の中で英語教育を捉え直し、言説を超えた英語教育のあるべき姿を描くことができるかもしれない。社会学的な英語教育論に接して、しかし、教育の現場では質的なものを見失ってはならないのではないかと考えさせられる。

(東條 加寿子)

## 大阪女学院大学「教員免許状更新講習1・2」 平成27年度講習

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計30名

■講習1 平成27年8月3日(月) 9:10~16:40

「発信型の英語コミュニケーション能力の育成」

・効果的に発信する仕組みと工夫(ジャンル分析)

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・効果的な英語プレゼンテーションを行うために

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【ジャンル分析】発信の対象と目的を明確にし、次に、どのような表現パターンが用いられているかを分析する。第一部では、天気予報、新聞記事、広告文、メールなど、生徒たちにとって身近なジャンルを捉えて、効果的な発信の仕組みと工夫を考える。【効果的な英語プレゼンテーション】発信型のコミュニケーションとして効果的に英語プレゼンテーションを行うための基本的なスキルを紹介し、即興のプレゼンテーションを通して、英語授業でプレゼンテーションを取り入れるための工夫を考える。

■講習2 平成27年8月4日(火) 9:10~16:40

「指導技術スキルアップ演習(英語)」

・発音・音読指導

夫 明美 大阪女学院短期大学 准教授

・生きた音声素材の教材化の工夫

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・学習補助教材作成の工夫

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

【発音・音読指導】授業テキストなどをを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行い音読指導のヒントについて考える。【生きた音声素材の教材化の工夫】英語の歌、ニュースや演説、インタビューなどの英語音声素材を生徒のレベルに適した教材として作成する際に必要な観点や工夫を、教材化の演習を通して考える。【学習補助教材作成の工夫】ワークシートや学習補助教材を作成する在り方やその工夫を、教科書や実物素材などを使って教材作成するワークショップを通して考える。

## ■ 受講申し込み受付

平成27年4月17日(月)より7月17日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。(申込方法)教員養成センターメールアドレス(ttc@wilmina.ac.jp)宛に、1)お名前(漢字・ふりがな) 2)メールアドレス 3)ご連絡先電話番号 4)勤務先・所属等 5)希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○受講料 5,000円(所定の口座へ振り込み)



## 編集後記

Open the windows and open the door  
 And let the fresh breezes blow in, blow in.  
 Jack Frost has gone to his home in the north  
 And all of a sudden it's Spring!

新年度が始まった。「良き出会いは人生を決める」それを心に今年度も頑張ろう。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
 教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: [ttc@wilmina.ac.jp](mailto:ttc@wilmina.ac.jp)